

## 2022 年度後期 授業に関する学部・学科・センター自己点検・評価

2022 年度後期は 739 科目の授業について、自己点検・評価が行なわれました。

教員は、各授業で実施した学生による授業評価アンケート結果に基づき、到達目標の達成状況、学生の課題への主体的な取り組みなどから学修成果の評価を行ないました。また、対象科目の学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）、カリキュラムマップ上の位置づけについての意見や、ICT の導入・活用等の授業改善の取り組みについて報告しました。

学科専門科目の自己点検・評価票については、学科長、学部長の順で点検を行ない、各教育センターが所管する科目については、センター所長が点検を行ないました。学科長・学部長、教育センター所長は、教育実践の改善活動の成果や今後の検討が必要な点、改善に向けて学科やセンターとして支援することや大学に要請したい支援についてコメントを提出しました。

FD 委員会は、(1)ICT の活用による授業充実、(2)自己点検評価における PDCA サイクルの充実の 2 点を目標として 2020 年度から 2022 年度の活動を進めてきました。今回の自己点検・評価の点検コメントから、これらについて以下のとおり報告いたします。

まず、(1)の ICT の活用による授業充実については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、松蔭 manaba や YouTube、Zoom などの活用が進み、全学的に飛躍的な成果が見られる結果となりました。一方で、アフターコロナとなった今、「教室で学生に『主体性』をもたせる工夫」「学習意欲の二極化」「PC スキルの個人差」などが課題としてあげられました。更に、最近では学生がノートを持参せず板書をスマホで撮影するといった場面も見られるようになり、IT や AI 技術が進む中での学習スタイルについても今後は検討が必要になります。

次に、(2)の自己点検評価における PDCA サイクルの充実については、教員それぞれに授業内容に応じた改善の努力が見られ、自己点検・評価の仕組みが適正に機能している結果となりました。今後は、各教員の取り組みを学科で共有し、学生指導に繋げられるように、全学的な支援体制の整備に向けて活動を進めていきます。

2023 年 10 月

FD 委員会委員長 片平 理子